

## 令和3年度第2回京都府日本型直接支払制度支援委員会の概要

- 1 開催日時：令和4年3月28日（月） 13：30～15：30
- 2 開催場所：ホテルルビノ京都堀川 3階 アムールの間
- 3 出席者：
  - 【委員】 星野委員長、柏尾委員、中尾委員、中村委員、松尾委員
  - 【京都府農地・水・環境保全向上対策協議会】 西尾事務局長
  - 【事務局】 農村振興課 田村課長、大島補佐、阪口主事、吉野主事  
農産課 椋平課長、中村補佐
  - 【振興局】 山城広域振興局 五島副主査  
南丹広域振興局 雪本副主査、一瀬技師
- 4 議題：
  - (1) 令和3年度の取組状況について
  - (2) 草刈り作業の省力化に向けたラジコン草刈り機の実証調査結果について
- 5 内容
  - (1) 令和3年度の実施状況について
    - 委員からの主な質問・意見
      - ・ 令和4年度から地域外からの呼び込み等の活動が対象活動に追加されたが、集落以外の人々の活動への参加をどのように考えているか。また、広報活動に外部の知恵を活かすことも大きなメリットと考えるので検討してほしい。  
→ 高齢化と人口減少が著しい中で、共同活動継続が困難になりつつあることを踏まえ、ボランティアも含め地域外から共同活動に参加する者を増やすことも必要と考えている。
      - ・ 「京力農場プラン」（＝人・農地プラン）との連携について、多面的機能支払交付金の活動計画や中山間直接支払交付金の集落協定と重複する部分が多くあるため、行政サイドで整理し、地域が効率的に戦略を立てていけるようサポートするべきだと考える。
      - ・ 人・農地プランにおける目標地図と集落戦略（中山間直払）双方の流用は可能か。また、構成員や土地の範囲等、相違点があるので調整が必要ではないか。  
→ 集落戦略に図面を付け、市町村が認めれば人・農地プランと認定することも可

能となっているが、指摘のとおり範囲などの相違点がある。

また、同地域で複数の計画を作成しなければならないことも制度上の課題であると認識している。共通化できる内容などを見据えながら、制度上改正が必要なものについては国へ改善要望を行っていききたい。

- ・ 集落戦略の作成数の伸び悩みが課題だと考える。目標年の令和4年度中の完成を目指しつつ、地域ごとの事情も反映された魂のこもった中身となるよう、指導や支援をしてほしい。
- ・ 中山間直払の加算取組について、他県と比較して取組協定数が少ないように考えるが、背景はあるか。  
→ 夏に全国を取組状況が公表されるので、その後に他県と本府の比較を行いたい。  
加算取組は対策期間中に目標を達成できなければ交付金を返還しなければならない点、実施を踏みとどまる理由ではないかと考える。
- ・ 市町村や集落が抱える課題やその解決方法の共有について、どのように行っていくのか。  
→ 交付金の活用方法や、先進的に取り組んでいる集落の手法などを、調査し、市町村へ提供していきたい。また、国へも全国的な情報の提供を依頼したい。  
加えて、日本型直接支払の各制度や人・農地プランについて、縦割りとなっており、情報共有・連携は課題と認識している。各制度の担当が他の制度の理解を進めるところから連携を進めていきたい。
- ・ 多面的機能支払交付金において市町村毎のカバー率に差がある背景はどのような理由であるか  
→ 多面的機能支払交付金の対象農用地である農振農用地がもともとない市町村もあるが、都市部に近い地域ではまとまった農地も少なく、交付額が事務の手に見合わないということがあり、カバー率の差の原因となっている。市町村に制度説明を行うなど啓発していきたい。
- ・ 環境保全型農業直接支払交付金について、有機農業の取組は、特別栽培農産物であるか。  
また、エコファーマーが要件からはずれているが、エコファーマー制度について、京都府としてどのように整理されているのか。  
→ 有機農業については、JAS 有機に相当する国際水準の有機農業としており、JAS 有機の認証は必須ではない。

また、エコファーマーについては、今後も推進していきたいと考えているが、現在国会で審議されている「みどりの食料システム戦略」の新法に、持続農業法が取り込まれ新しい制度ができると聞いているところ。

これまで、ブランド戦略の中に環境負荷低減や環境にやさしい農業を取り込み、ブランド認証や京野菜などをPRしてきたが、エコファーマーについてはメリットがない、という地域の声もあることから、国の関連法案を注視しながら新たな支援制度の検討し、マーケットと結びつけながら拡大していきたい。

- ・ 環境保全型農業直払の取組面積の推移と目標数値について、実績が減少しているが、令和5年の目標達成の見込みなどはどうか。  
→ 令和3年産は米価下落が問題となっており、特別栽培の取組に少し環境にやさしい取組を加えることで支援対象となることもあるので、制度に前向きに取り組むよう積極的に啓発していきたい。

## (2) 草刈り作業の省力化に向けたラジコン草刈り機の実証調査結果について

- ・ ラジコン草刈り機の実証調査について、充電後1時間程度動かすことが出来るのですが、作業中に充電切れで止まることはあるのか  
→ ガソリンエンジンを回しながら充電も行うため、作業中に止まることはない。
- ・ ラジコン草刈り機について、どれほどの草丈まで刈ることが可能か。  
→ 実証調査では、1m以上の草丈でも刈ることが出来ており、草丈は影響がないと考える。
- ・ ラジコン草刈り機の実証調査について、他の機械との比較や、価格帯毎の比較、土地の適正にまで拡大することが出来れば、非常に面白いと考える。また、中山間地域等直接支払交付金における生産性向上加算を用いたラジコン草刈り機の導入等にまで展開を広げればよいと考える。